

令和元年度前期海外FW支援プログラム 活動報告

引率教員	野々瀬真司 石元孝佳	所 属	大学院生命ナノシステム科学研究科 ナノシステム科学専攻
科 目	国際リトリート	参加学生数	21名
渡航先	台湾、台北市	渡航期間	令和元年9月3日～9月7日

日付	行程	概要(ねらい)
9月3日	羽田空港発 松山(台北)空港着	<p>本学が推進する国際化のもと、生命ナノシステム科学研究科において大学院特別演習の一環として、台北にある台湾有数の大学である国立台湾大学、国立台湾師範大学の2つの大学で、本年度も2014～2017年度に引き続き、通算5回目となる本FWプログラムを行った。これは、研究交流、現地研究者とのふれ合いによるモチベーションの向上、学生の国際化の促進を目的とするものである。特に、国立台湾師範大学とは2015年度にMOUが締結されており、学生交流や教員交流を確認した。具体的には、本学および現地学生によるワークショップ形式の研究発表会および、現地の研究室見学等を行った。国際化に対応できるような人材育成という目標を考えた際に、海外へ赴き、現地の学生・研究者との外国語(英語)による討論が重要であると考えられる。今回の海外FWによるプログラムは、この目的を十分に果たしたと思われる。特に、海外に出向いて発表するという緊張感から、学生のモチベーションは常に高い状態で保たれ、その中で多くのことを経験することが、国際化に対応できる人材育成という目標には必須の教育プログラムであると認識している。今回は、台湾の大学との研究交流であったため、現地の学生にとっても英語は母国語ではない。しかし、理学系の分野にとって英語は母国語が異なる多国間の人々の間で用いるコミュニケーションツールとしての側面が強く、そのような意味において、今回のFWは理学系の学生にとってより実践に近い形の教育プログラムになっていたと考えている。また、プログラム内での教育効果だけでなく、このプログラムに参加することで、国際舞台におけるコミュニケーション能力の重要性を強く認識した学生が多く、その意味でも意義深いFWであったと思う。</p>
9月4日	国立台湾大学・中央研究院・原子與分子生物學研究所(IAMS)を訪問。現地学生と合同で研究発表会、および交流会を開催。	
9月5日	国立台湾師範大学(NTNU)を訪問。現地学生と合同で研究発表会、および交流会を開催。	
9月6日	九份、野柳公園等にてフィールドトリップ。	
9月7日	松山(台北)空港発 羽田空港着	

原子分子生物學研究所 (IAMS) の学生と合同で研究発表会 (9月4日)



IAMSとの
研究発表会の
集合写真

国立台湾師範大学 (NTNU) の学生と合同で研究発表会 (9月5日)



NTNUとの
研究発表会
の集合写真

横浜市立大学の学生と現地大学の学生が英語による口頭発表とポスター発表を行った。口頭発表での質疑応答などはやや緊張した様子だったが、研究室見学とポスター発表の時間には台湾の学生と本学の学生が自らの研究結果について活発に意見交換している様子が多くみられた。日本語での学会発表を経験していない学生も多くいる中で、最初の学会発表が英語で、かつ口頭発表という高いハードルではあったが、十分な準備をして海外フィールドワークに参加していたように思う。台湾の学生たちとの交流も、初めはためらっている部分も見られたが、徐々に打ち解けて、研究の話のみならず現地話題などについても情報交換をしている様子だった。